

聖書日課 『からし種』 2023.2.19-2.26

<p>2月19日 (日) ヨシュア 23章</p>	<p>「あなたたちは心を尽くし、魂を尽くしてわきまえ知らねばならない。あなたたちの神、主があなたたちに約束されたすべての良いことは、何一つたがうことはなかった」(14節)。主のなさる「良いこと」は、今や目先のことだけからはわからないのだろう。「なぜこんなことが？」と思うことの多い今、心を尽くし魂を尽くして、主のみこころをわきまえ知りたい。</p>
<p>20日 (月) ヨシュア 24章</p>	<p>「これらのことの後、主の僕、ヌンの子ヨシュアは百十歳の生涯を閉じ、エフライムの山地にある彼の嗣業の土地ティムナト・セラに葬られた」(29～30節)。33節にはアロンの子エルアザルの死も記される。大先駆者モーセとアロンの後継という重圧を担って生きた二人。ヨシュアに学ぶファイティング・スピリットで、他者ではなく自分自身の弱さと戦っていきたい。</p>
<p>21日 (火) 士師記 1章</p>	<p>「ヨシュアの死後、イスラエルの人々は主に問うて言った。『わたしたちのうち、誰が最初に上って行って、カナン人を攻撃すべきでしょうか』」(1節)。目に見えるリーダーがいなくなり、群れ全体で主のみこころを問う時代があった。しかし、目の前の課題に圧倒されたのか、やがて自ら「王」を求めることになる。まことのリーダー、主イエスを見失わないようにしたい。</p>
<p>22日 (水) 士師記 2章</p>	<p>「その世代が皆絶えて先祖のもとに集められると、その後に、主を知らず、主がイスラエルに行われた御業も知らない別の世代が興った」(10節)。憂うべきこととして記されているようだが、別の観点からすれば「新しい世代の出发点」だったのではないだろうか。今の世代のその人々に臨んでおられる主のご計画を見つめ、大切にしたい。</p>

聖書日課 『からし種』 2023.2.19-2.26

<p>23日 (木)</p> <p>士師記 3章</p>	<p>「イスラエルの人々が主に助けを求めて叫んだので、主はイスラエルの人々のために一人の救助者を立て、彼らを救われた」(9節)。本章で最初の「士師」が登場後、実に多様な境遇・賜物の人々、とても「リーダーの資質」があるように見えな人までも用いられていく。しかし問われているのは、「そのリーダーを受けて人々はどうするか」なのかも知れない。</p>
<p>24日 (金)</p> <p>士師記 4章</p>	<p>「バラクはデボラに言った。『あなたが共に来てくださるなら、行きます。もし来てくださらないなら、わたしは行きません』」(8節)。「友の助けがなければ、ひとりではできない」という率直な告白と受け取りたい。当時の男社会で女に助けを求めたことで、「主は女の手に栄誉を渡される」のように言われながらも、バラクはデボラとともに働きに加わった。</p>
<p>25日 (土)</p> <p>士師記 5章</p>	<p>「彼女(ヤエル)は手を伸ばして釘を取り／職人の槌を右手に握り／シセラの頭に打ち込んで砕いた。こめかみを打ち、刺し貫いた」(26節)。とても真似したくない残酷さだが、猛将たる男が眠る傍にそっと近づく彼女の心臓の音が聞こえるようで、固唾を呑む。自分にも、もしこのような一大局面が来たとしたら、人を殺すためではなく生かすために、主に賭けたい。</p>
<p>26日 (日)</p> <p>士師記 6章</p>	<p>「あなたのその力をもって行くがよい。あなたはイスラエルを、ミディアン人の手から救い出すことができる」(14節)。主から「あなたのその力をもって行け」と言われたものは、ギデオンの目には「最も貧弱で、いちばん年下で」(15節)、とても「力」と言えるものではなかった。けれども主が共にいてくださる時、「貧弱で小さな力」が主の働きとされることを覚えない。</p>